

鳥羽水族館

大発見！ワクドキ深海アドベンチャー

～熊野灘から見る深世界～

開催期間：2025年7月19日（土）～2025年11月3日（月・祝）



【企画展の内容・目的】

■本企画展は、深海とそこに広がる多様な生態系の魅力を幅広い年齢層の方々にわかりやすく伝えることを目標とする。

内容

- 三重県沖の熊野灘で12年間実施している深海生物の調査の成果
- 過去におこなった、インターネットを活用したダイオウグソクムシの生態観察の生中継の報告
- 過去におこなった、コモロ諸島でのシーラカンス調査
- パラオやニューカレドニアにおけるオウムガイ類の調査・採集など、

現在およびこれまでの、水族館の取り組みについて実際の調査や観察に基づいた事例を紹介することで、来館者が深海について学ぶ機会を作り出しています。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025 年 7 月 19 日（土）～2025 年 11 月 3 日（月）

■開催場所：鳥羽水族館 企画展示室

■入場者数：430,025 人



鳥羽水族館 外観



企画展会場 入口

企画展の内装は潜水艦をイメージし、来館者が本物の潜水艦に乗り込んで深海探検に出かけるかのような臨場感を体感できるように工夫しました。本企画展では、深海とその生態系の魅力を幅広い年齢層に伝えるという開催趣旨のもと、熊野灘における商業漁船を活用した深海生物調査や、生物多様性の現状把握の取り組みを紹介しました。あわせて、過去に実施したダイオウグソクムシの生態観察生中継など、インターネットを活用した情報発信の事例を通じて、深海生物の興味深い生態を示すことができました。さらに、パラオやニューカレドニアでのオウムガイ類調査、コモロ諸島でのシーラカンス調査など、稀少種の保護活動を通じて得られた知見を展示することで、深海生物の不思議とその重要性、ならびに海洋環境保全への理解を深める成果が得られました。これらの取り組みを通じ、深海生物の不思議とその重要性を伝達し、人々の海洋環境への理解を深めることができました。本企画展を通じて、海の豊かさとその保全の重要性を伝え、一人ひとりが海洋保護活動に参画するきっかけ作りがでたと考えます。



深海の入り口

熊野灘では、12年間にわたり継続的な生物調査を実施してきました。本展示では、その調査の過程で発見された新種40種をパネルで紹介するとともに、生体や標本の展示を行いました。深海は私たちの日常から最も遠い海域の一つですが、継続的な調査と観察によって、その姿が少しずつ明らかになってきていることを伝えることができました。

調査で得られた知見は、単に新しい生物を見つけることにとどまらず、熊野灘という海域が持つ独自の環境や、生物多様性の成り立ちを理解する手がかりとなります。来館者には、実際の生物や標本を通して、深海が「未知の世界」であると同時に、調べ、学び、考える対象であることを感じてもらえました。

深海の神秘やそこに生きる生物たちの驚くべき姿に触れることで、海を知ることの面白さ、そして調査や研究を積み重ねることが、海の未来を考える「学び」につながっていくことを伝えました。



山とつながる深海

陸上から河川を通じて海へ流れ着いた木や落ち葉は、やがて深海に沈み、そこで独特な生態系を形づくりします。本展示では、こうした陸と海のつながりによって成り立つ深海の生態系である「沈木生物群集」を紹介しました。太陽の光が届かない深海では、陸上由来の有機物が重要なエネルギー源となり、多様な生物を支えています。この展示を通して、山で生まれた物質が川を通じて深海の生物を支えているという、陸・川・海をつなぐ物質循環の視点から海を学び、深海が決して孤立した世界ではないことを理解してもらうことを目指しました。あわせて、2014年に水族館の水槽内で初めて確認された、カガミモチウニのメスの上にオスが乗るという奇妙な行動についても紹介しました。今回、水中ドローンによる観察によって、この行動が自然の深海環境下でも初めて確認されました。水族館で発見された生態が、実際の深海でも見られることを示すことによって深海研究や観察の大切さへの理解を深めました。

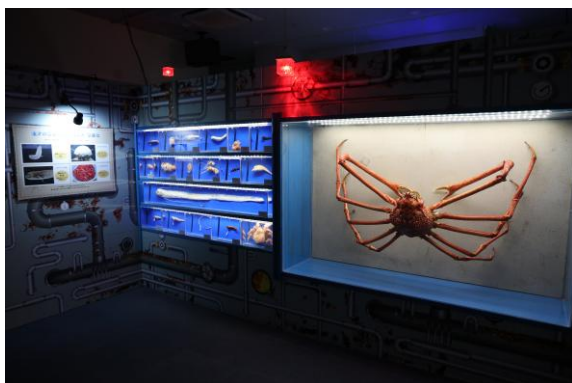


深海の生存戦略

深海にすむ生きものたちは、暗く水圧の高い、きびしい環境の中で生き抜くために、さまざまな工夫を身につけています。本展示では、深海魚を中心に、その体の形や暮らし方といった生存戦略を、標本とわかりやすい解説を通して紹介しました。

ナガツエエソやトリカジカエラモグリ、ハダカイワシといった一見奇妙な姿の深海魚をはじめ、巨大な脚をもつタカアシガニ、さらに三重県では4例目となるリュウグウノツカイの標本も展示しました。これらの標本を通して、なぜこのような形をしているのか、どのようにして深海という特殊な環境に適応してきたのかを学ぶ機会を提供しました。

不思議に見える姿の一つひとつが、深海で生き抜くための合理的な工夫であることを知ることと、深海生物の多様性や、自然の巧みさへの理解を深めてもらうことを目指しました。



ワクドキ深海大調査 ～ダイオウグソクムシ～

鳥羽水族館が、インターネットを通じた情報発信を通して広く注目を集めたダイオウグソクムシをテーマに、その魅力を伝える展示を行いました。見た目のインパクトだけでなく、深海という過酷な環境で生きるための不思議な能力や暮らしに目を向けることで、深海生物への理解を深めることを目的としました。

展示では、水槽内で偶然とらえられたダイオウグソクムシの脱皮の瞬間を映像で紹介することで、普段は目にするのできない貴重な行動を通して、生きものの成長や変化を身近に感じてもらえる内容となりました。

さらに、絶食期間5年で大きな話題となったダイオウグソクムシ「No.1」の標本を初公開しました。あわせて、生体展示としては日本初となるタイワンダイオウグソクムシ

Bathynomus jamesi を紹介し、同じ仲間でも種によって姿や特徴が異なることを学べる展示としました。

このコーナーでは、身近な話題から深海研究へと関心を広げ、観察や記録、発信が新たな「海の学び」につながっていくことを伝えました。



ワクドキ深海大調査 ～シーラカンス～

1989年に、鳥羽水族館とコモロ国立科学博物館が共同で行った海洋生物調査の様子を紹介しました。長年「生きた化石」として知られてきたシーラカンスは、その生態の多くが謎に包まれており、実際の海での調査が重要な手がかりとなっています。

本展示では、水中ロボットカメラによって撮影された、自然の海を泳ぐシーラカンスの貴重な映像を紹介するとともに、魚拓の展示を通して、その体のつくりや大きさを実感しながら学ぶことができます。

調査によって初めて明らかになる深海生物の姿や行動を知ることで、シーラカンスが単なる「不思議な魚」ではなく、研究と観察によって理解が深まってきた存在であることを伝え、深海調査の意義や海を学ぶ面白さを感じてもらうことを目指しました。



ワクドキ深海大調査 ～オウムガイ～

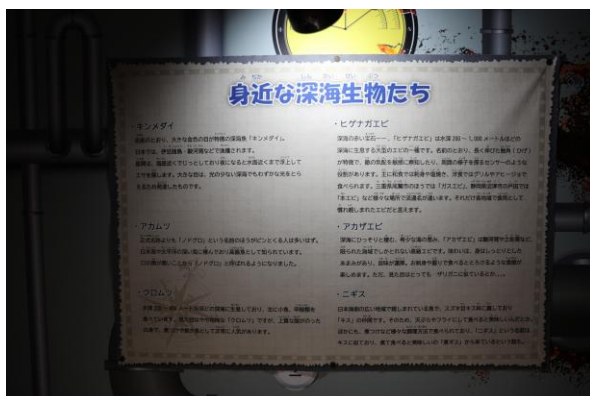
「生きた化石」として知られるオウムガイについて、標本や体の構造の解説を通して紹介しました。長い進化の歴史をもつオウムガイは、その姿やしくみから、太古の海のようなすを知る手がかりとなる生きものです。展示では、これまでに鳥羽水族館が行ってきた調査や飼育、繁殖への取り組みをパネルや映像でわかりやすく紹介しました。普段は見ることのできないオウムガイの行動や成長の様子を通して、その不思議な生態を伝えました。

さらに、水族館で繁殖したオウムガイの標本を展示し、国内でも限られた事例である繁殖の実績について解説しました。こうした取り組みを通して、オウムガイの理解を深めるとともに、水族館が担う研究や保全の役割、そして海を学ぶことの大切さを伝えました。



実は食べられている深海魚

メヒカリやノドグロ、ヒゲナガエビなど、スーパーや市場で見かける身近な魚介類の中には、深海にすむ生きものが数多く含まれています。本展示では、これらの深海魚を冷凍庫の中に入れた形で展示し、普段の買い物風景を思い浮かべながら観察できる工夫をしました。展示を通して、深海魚は特別で遠い存在ではなく、私たちの食生活と深く関わっていることに気づいてもらうことを目指しました。意外と身近なところで深海魚を食べていることを知ることで、海の奥深くと私たちの暮らしが繋がっていることを学べるコーナーとなりました。



【来館者の声】

- 新種の生きものがたくさん見つけていて驚いた
- ダイオウグソクムシがカッコよい
- 深海には知らない生きものがいて面白い

2. 関連事業の内容

■夏の企画展特別イベント「珍種ハンターの深海トーク！！」

【開催日時】2025年8月4日（月）、8日（金）各日2回実施
10:00～11:00、14:30～15:30

【開催場所】鳥羽水族館 企画展示室

【参加者数】8月4日（月）午前21名 午後40名
8日（金）午前25名 午後41名

【実施内容・目的】

●鳥羽水族館が2013年から取り組んできた熊野灘の沖合底引き網による生物調査で見つかった新種生物を紹介する。ふだん目にする機会が少ない生物の生態や姿を知ること、深海の熊野灘の深海の生物多様性を学ぶことを目的とする。



本イベントでは、鳥羽水族館が2013年から継続して取り組んできた熊野灘沖合底引き網調査を題材に、深海生物の多様性と調査の現場について紹介した。本イベントでは、同調査によって発見された新種生物取り上げ、普段目にする機会の少ない深海生物の姿や生態を分かりやすく解説した。トークでは、生物そのものの特徴に加え、商業漁船と連携した調査方法や、生体飼育によって明らかになった行動・形態の特徴など、研究に至るプロセスを紹介した。写真や映像、実物資料を用いることで、来館者が発見の過程を追体験できる構成とした。本イベントを通じて、参加者は熊野灘の深海が高い生物多様性を有する生態系であり、現在も調査によって新たな知見が蓄積されている場であることを理解した。本イベントは、調査・研究の現場と参加者を結びつけ、科学的知見がどのように社会へ還元されるのかを学ぶ機会となった。

【来館者の声】

- タイワンダイオウグソクムシの標本を間近で見られて良かった。大迫力。
- カガミモチウニの習性など今まで知らなかった。不思議な行動が知ることができて面白い内容だった。
- このセミナーに参加するためだけに静岡県から来ました。とても学びになった。

【事業全体のまとめ】

本サポート事業を活用することによって、水中ドローンを用いた深海の撮影が可能となった。その結果、これまで水槽内でしか観察されていなかったカガミモチウニの重なり行動を自然環境下において初めて明らかにすることができ、深海生物の生態解明に大きく貢献した。他にも貴重な深海生物の姿を撮影することができた。さらに、会場の装飾を「潜水艦」風にすることで、幅広い年齢層の方に楽しみながら深海への理解を深める機会を提供することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 三重大学	実習船勢水丸に乗船させてもらい動画資料撮影及び深海生物の採集
2. 東海大学博物館	展示用魚類標本の借用
3. 株式会社 FullDepth	水中ドローンを用いた熊野灘漸深海帯の動画資料撮影及び深海生物の採集

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 中日新聞	掲載日：2025 年 7 月 23 日
2. 朝日新聞	ダイオウグソクムシ少し違う種類が目玉 掲載日：2025 年 7 月 30 日
3. 伊勢新聞	深海生物、生態知って 掲載日：2025 年 8 月 17 日
4. 教育家庭新聞	深海の生きものの不思議な生態に迫る 2025 年 9 月 15 日
5. NHK 津	放送日：7 月末ごろ
6. ZTV	「大発見！深海の生きものたち」 放送日：9 月 1 日～7 日
7. いきいき生涯&ゆうゆう学習 vol.4	2025 年 7 月 1 日
8. きらきら 7・8 月号	2025 年 8 月 1 日
9. デートプラス 2025 東海版	2025 年 8 月 1 日
10. コーブステーション	2025 年 10 月 1 日